

姫路駅北駅前広場（兵庫県）

市民が関わるパブリックスペースのデザイン～市民・行政・専門家の創造的連携

- 計画段階／市の基本レイアウトが変更されるまでのプロセス
- 設計プロセス段階／各組織が連動して展開した合意形成のためのダイナミックなプロセス
- デザイン段階／パブリックスペースにおけるデザイン調整の重要性と各パートにおけるデザイン手法
- エリアマネジメント段階／ハード整備の市民公開プロセスを受けて、市民主体のエリアマネジメントへ

(その他、情報収集中)

※2012年11月に、一般社団法人ひとネットワークひめじが設立され、運営管理が行われており、活用可能な公共領域の確保と、活動促進を行っている。(土日の活用はほぼ100%、月の稼働率も50%を超えている)



柏の葉 オープンイノベーションラボ KOIL（千葉県）

予想外の使い方が生み出される、未完成を意図した空間

イノベーションセンターとは、企業や個人が従来の枠組を超えて協働するプラットフォームのような場所である。KOILでは分野を横断するコミュニケーションを円滑にするため、一つのワークプレイス内に、集中する・くつろぐ・プレゼンテーションする・作る・食べるなど様々な機能を内包する。

(その他、情報収集中)



SHIBAURA HOUSE（東京都）

透明感あふれる「ビル型公園」は、運河の街の新たな憩いの場

SHIBAURA HOUSEは、近くに暮らす子供や母親をはじめ、会社員、そして海外からのゲストも集まるコミュニティスペースとして運営しています。料理や英会話のクラスから、海外のゲストを招いたレクチャーまで、年間に100回をこえる文化的プログラムを実施しています。さらに1Fは誰でも無料で出入りができる公園のような場として開放。ランチタイムには会社員や近所の人々で賑わう光景をみることができます。

(その他、情報収集中)



アオーレ長岡（新潟県）

「21世紀の市民協働型シティホール」の誕生！

vitalization case 04 「アオーレ長岡」

自然エネルギーの活用とナカドマ

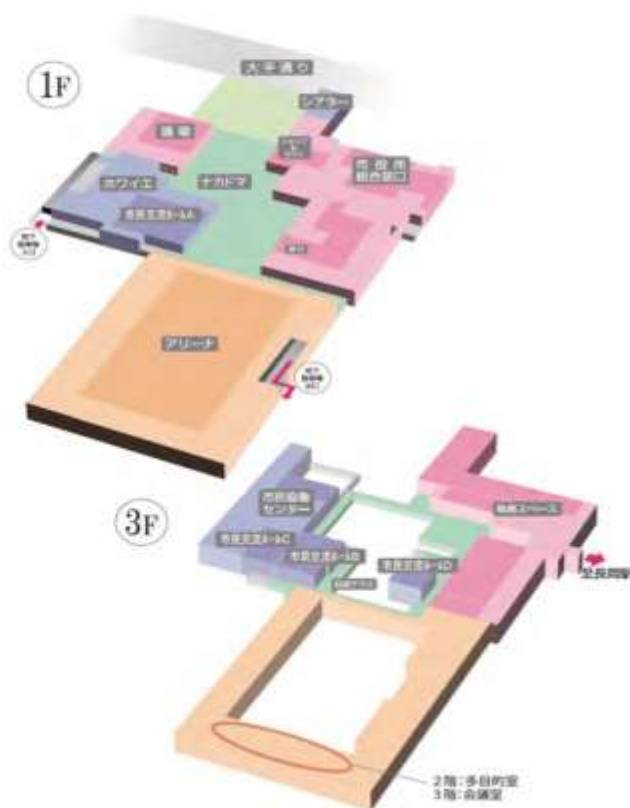
アオーレ長岡は、敷地の中央に大きく開かれた屋根付き広場(ナカドマ)が配置され、その外側を囲むように建つ3つの棟で構成されています。これは、設計者 張研吾さんの設計コンセプトの一つでもあり、この「まちに開けたナカドマ」は施設の象徴となっています。

建物の中と外とをつなぐこの空間は、誰もが気軽に立ち寄り、憩い、活動することができます。言わば市民が主役の活動空間であり、この内を開き外に閉じる建物配置や構造が、施設全体のエネルギー負荷を軽減し、かつ外と内部の染み出しをナカドマで緩衝する「省CO₂型サステナブル建築」です。自然原理に受動的に対応し、無理なく環境の調整を行うパッシブな設計で、太陽光や風、雨や雪などの「自然エネルギーの恵み」を建物全体で取り入れる、環境との共生による省CO₂を実践し、冬期間における市民活動の可能性も広げています。

官民協働のエネルギーサービス事業

アオーレ長岡の環境技術の核となる「天然ガスコージェネレーションシステム」は、建設段階から現在の運用・管理に至るまで、地元事業者等の資金や民間のノウハウを活用した「エネルギーサービス事業」として展開しています。

発電時に出る排熱を空調熱源以外の融雪にも有効活用するエネルギーのカスケード(多段階)利用システムの管理や、運用時における省CO₂の評価及び改善手法の検討等、専門性が必要な分野について民間事業者が官を補完する協同事業です。エネルギー効率のベースラインの設定や省CO₂を担保する契約形態が相互利益を生み、アオーレ長岡における省エネ管理の徹底と省CO₂の実現へ官民協働で取り組む原動力となっています。



アオーレ長岡配置図



自由な発想で多様な使い方ができる「ナカドマ」

市民協働・交流の拠点として

江戸時代の長岡藩から受け継がれてきた長岡市民の「市民協働」の精神は、今、このアオーレ長岡を拠点に展開しています。「市民力のまち長岡」らしく、市民の活動を市民組織がサポートする体制をアオーレ長岡のオープンに合わせて構築しました。アオーレ長岡の市民スペースの運営を市民組織が行うことで、利用者と同じ市民の視点だからこそ可能な、柔軟でより自由度の高い運営が実現しています。行政は、この市民活動が安全・安心そして安定して展開できるよう、省CO₂技術をはじめとした施設の維持管理などのハード面をサポートします。オープンから3年目を迎え、行政主導ではない市民発想により作られる民間のイベントが年々増加し、今では年間120万人を超える人が訪れる(※)新しい長岡の「顔」となっています。

「良いソフトは計画的に設計された良いハードから生まれる」という理念から始まったアオーレ長岡計画は、行政の予想を超え、市民の自由な発想により日々成長を続けています。
(※観覧窓口(市役所)利用者を含む)



今後の展開

アオーレ長岡の運営を支えてきた市民組織は、平成26年6月にNPO法人となり活動の舞台を中心市街地全体に広がっています。今後、アオーレ長岡を核としたまちづくりが、現在進められている中心市街地における再開発事業を含め、市民との協働でよりいっそう進んでいくことが期待されます。



「アオーレ」は長岡地域で「会いましょう」を意味する方言

参考文献：アオーレで、あおうれ。ー長岡市の挑戦ー(発売所 丸善出版)

■施設整備から運営まで、市民協働のプロセスが分かる別添資料を提出

市民交流ネットワーク「アオーレ」役員名簿

No.	役 職	氏 名	肩 書 き
1	顧問	二澤 和夫	長岡観光コンベンション協会会長
2	代表	神林 茂	前長岡市商工部長、元企画部長
3	副代表	樋熊 隆治	アオーレ長岡イベント検討市民協議会会長
4	理事	安藤 栄治	大手通商店街振興組合理事長
5	〃	猪俣 元英	長岡市商店街振興組合連合会事務局長
6	〃	大井 盛久	シティプロモーション推進会議幹事長
7	〃	小川 峰夫	NPO法人まちなか考房代表理事
8	〃	小林 均	勸長岡市体育協会専務理事
9	〃	佐々木 保男	(社)長岡観光コンベンション協会専務理事
10	〃	佐竹 直子	多世代交流館になニーナ代表
11	〃	鈴木 藏	勸長岡市芸術文化振興財団専務理事
12	〃	田中 仁	古志の火まつり実行委員会委員長
13	〃	長尾 弘	長岡市民合唱団団長
14	〃	樋口 勝博	NPO法人復興支援NWフェニックス代表理事
15	〃	星野 正子	NPO法人緑うるおう栃尾を育む会
16	〃	松野 卓和	長岡商工会議所青年部会長
17	〃	村上 揚市郎	(社)長岡青年会議所理事長
18	〃	山田 勝	NPO法人和島夢来考房理事長
19	〃	山村 雅隆	長岡商工会議所専務理事
20	〃	渡辺 千雅	長岡フィルムコミッション代表
21	〃	山崎 茂樹	長岡市市民交流推進室長
22	監事	石田 章	NPO法人復興支援NWフェニックス副代表理事
23	〃	星 雅人	長岡市市民交流推進室次長

アオーレ長岡を運営・管理する「NPO法人ながおか未来創造ネットワーク」の前身である市民団体の名簿。代表の神林氏は、NPO移行後も代表理事を務める。

丸の内朝大学(東京・丸の内 ECCOZERIAを活動拠点として)



集会所×Cafe(東京・品川区 パークシティ大崎)



暮らしと仕事のリズムの中で
かかせない時間をつくるために
oursはうまれました。

新しく生まれた街、パークシティ大崎に
新しい集いをつくる街のお茶の間として
朝から夜まで、いつでもお待ちしております。



はじまりのカフェ(東京・日本橋 日本橋三越)



その他のプロジェクト



からくわ丸

KARAKUWA DESIGNERS LEAGUE

活動方針

地域の「再発見」「発信」「考える・つなぐ」以上3つの作業をサイクルのように繰り返します。



からくわモデル=まちづくり地道サイクル

1. 地元学を参考にした「あるもの探し」活動
(まち歩き活動など)で住民による地域の再発見を促します。
2. 発見した地域の資源をフリーペーパーや様々なメディアで
地域内外に発信していきます。
3. それをもとに、いろんな方々と今後の地域について考え、
つながりを生む場をつくります。
つまり、まちづくりやまちおこしに住民が参画していく
機会づくりをします。

そして、その仲間たちとまた再発見の作業に入っていく・・・
地道で時間のかかる作業ですが、住民主体の復興・まちづくりの
基礎になるサイクルだと信じています。